

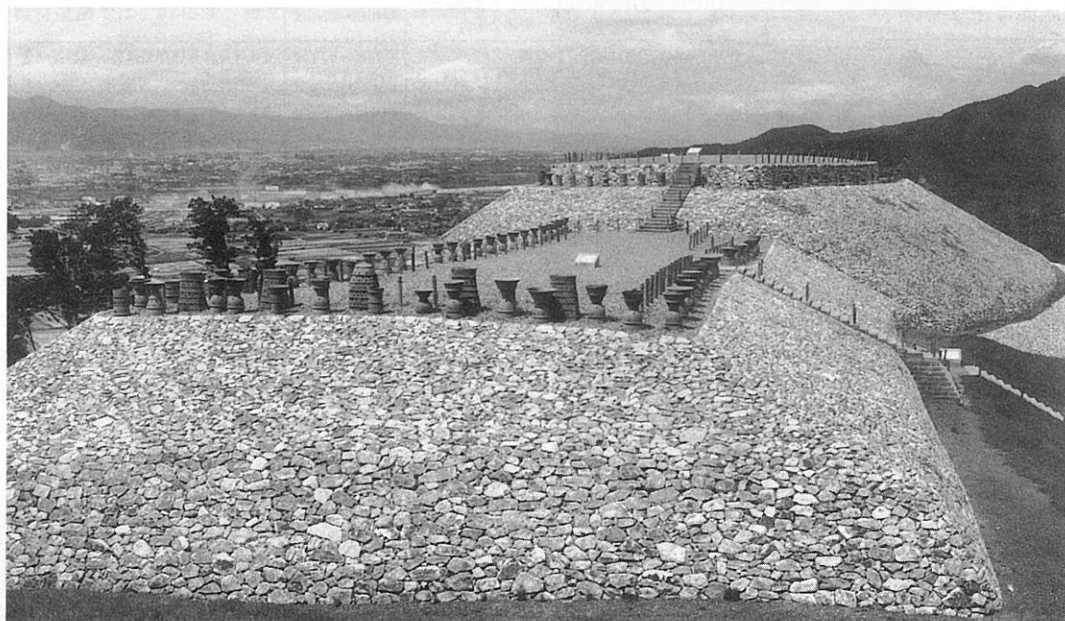
長野県埋蔵文化財ニュース

No. 35

1992.10.15

(財)長野県埋蔵文化財センター

〒388 長野市篠ノ井布施高田字佃963-4
TEL 0262-93-5926



史跡の整備

森將軍塚古墳

森將軍塚古墳は、更埴市の千曲川右岸にある有明山から北東に延びる標高約490mの尾根上に位置する。全長約100mの前方後円墳である。後円部には、二段墓壇の中央に長大な竪穴式石室が設けられている。三角縁神獣鏡をはじめ玉類・鉄器などの副葬品があり、また墳丘には埴輪列が巡らされており、4世紀後半の築造とされる。

古墳は、埋め立て用土砂採取により崩壊寸前の状態に至り、昭和45年市民・研究者・行政が一体となった保存運動が起こり、昭和46年国の史跡に指定され保存された。更埴市では、こうした市民総ぐるみで守った古墳の保存を図るとともに、広く公開するために整備事業を計画した。

史跡森將軍塚古墳保存整備事業は、古墳の保存とその公開を目的に計画され、古墳の全面発掘調査結果に基づき、築造当時の姿に正確に復原整備して保存を図り、広く公開・活用するという基本方針に基づき実施

更埴市教育委員会

された。国・県補助事業として、昭和56年度から平成3年度の11か年事業となった。

古墳は、全面発掘調査により規模・構造などが明らかにされ、残存していた裾石垣や墳丘盛土を一旦解体した後に、改めて積み直すという解体修理を行った。また、墳丘上の埴輪列も調査結果に基づき、複製を製作して設置した。さらに、周辺部の小型埋葬施設や、古墳群も合わせて整備を行った。

見学者の利用にあたり、墳丘に階段や安全柵・説明板などをはじめ便所、崖の防災工事なども実施した。

一方、長野県は古墳の直下に、県立歴史館（仮称）の建設を計画し、また市ではこれら施設を含めて森將軍塚古墳一帯を『科野の里歴史公園』として整備を実施中である。

史跡森將軍塚古墳は、古墳までの道路整備ができた9月23日より一般公開された。なお、狭い山の中腹にあるために、車の乗り入れはできない。

長野県内の国・県指定史跡の整備状況

長野県教育委員会文化課

名 称	種 別	指 定	所 在 地	整 備 内 容	整備時期	主 な 財 源
森 将 軍 塚 古 墳	古 墳	国	更埴市森	古墳の復元・整備 周辺整備	昭和56～ 平成3年度	文化庁史跡等保存整備費(一般)補助金
上 田 城 跡	城 跡	国	上田市二の丸	二の丸北虎口石垣復元・本丸堀濠 本丸東虎口櫓門復元・本丸西虎口仮 整備	平成2年度～	地域づくり推進事業
信濃国分寺跡	寺院跡	国	上田市国分	遺構を埋め戻したうえで基壇復元と 造園工事を行い、史跡公園化	昭和43～47年度	
松 本 城 跡	城 跡	国	松本市丸ノ内	二の丸御殿跡の整備 土塁改修・本丸黒門櫓形内整備	昭和56～60年度 平成2年度～	文化庁史跡等保存整備費(一般)補助金 市一般財源
弘 法 山 古 墳	古 墳	国	松本市出川町	墳丘整備、説明板・四阿などの設置 等の周辺整備	昭和51～52年度	文化庁史跡等保存整備費(一般)補助金
中 山 道 街 道	街 道	国	和田村	道及び関連建物(永代人馬施行所・本 陣)の復元・整備	昭和53～58年度 昭和61～ 平成2年度	文化庁史跡等保存整備費(特殊)補助金
中 山 道 街 道	街 道	国	南木曽町	道及び関連建物の復元・整備	昭和53～58年度 平成元年度～	文化庁史跡等保存整備費(特殊)補助金
福 島 関 跡	関 所 跡	国	木曽福島町関町	棟門・櫓などの復元整備	平成4年度	地域総合整備事業
旧 文 武 学 校	藩 校	国	長野市松代町	文学所ほか7棟と門、土堀の復元、 槍術場の移転復元	昭和48～53年度 平成4・5年度	文化庁史跡等保存整備費(一般)補助金
松代藩主真田家墓所	大名家墓所	国	長野市松代町	堀の修理	平成3年度	文化庁史跡等保存整備費(一般)補助金
松代城跡附新御殿跡	城 跡	国	長野市松代町	一番土蔵・四番土蔵・五番土蔵・長 屋門の修理、整備のための発掘調査 を実施中	昭和60～62年度 昭和60・平成元 年度～	文化庁史跡等保存整備費(一般)補助金
井 戸 尻 遺 跡	集 落 址	国	富士見町境	復元住居建設と仮整備、復元住居の 全面改修・周辺の公有地化、整備	昭和45年 平成4～6年度	町一般財源 地域文化財保全事業
佐 野 遺 跡	集 落 址	国	山ノ内町佐野	第一史跡公園(集石群の復元)整備、 第二史跡公園(「岩石の広場」「薬用・ 食用植物の迷路」)整備	昭和34年度 平成元～5年度	町一般財源
尖石石器時代遺跡	集 落 址	国	茅野市豊平	平成2年度から史跡整備のための範 囲確認調査を実施中、平成5年度に 整備基本計画を作成し、6年度から 整備着手予定	平成6～8年度	文化庁史跡等活用特別事業費補助金 (予定)
平 出 遺 跡	集 落 址	国	塩尻市宗賀	古墳時代の住居址3棟の復元・歴史 公園の整備	昭和58～60年度	文化庁史跡等保存整備費(一般)補助金
大 深 山 遺 跡	集 落 址	国	川上村大深山	復元住居、竪穴住居の復元などの設 置による公園化	昭和42年度	
小 林 一 茶 田 宅	人物関係	国	信濃町柏原	旧宅(土蔵)の修理・説明板設置	昭和60年度	文化庁史跡等保存整備費(一般)補助金
真 田 氏 館 跡	居 館 跡	県	真田町長	土塁修理、冠木門の修景的復元、植 栽、周辺整備	平成4年度～	地域づくり推進事業
伊那県庁(飯島陣屋)跡	陣 屋 跡	県	飯島町飯島	陣屋建物の復元	平成4年度～	地域づくり推進事業
浪合関(浪合口留番所)跡	関 所 跡	県	浪合村ウツフ	薬医門の復元	平成4年度	村一般財源
青 柳 氏 城 館 跡	城 跡	県	坂北村青柳	冠木門の修景的復元・櫓の復元、案 内版・四阿などの設置、遊歩道の整 備、周辺整備	平成3年度	地域づくり推進事業
高 梨 氏 城 跡	居 館 跡	県	中野市中央	堀・土塁の整備、庭園の復元整備な ど居館跡全体の整備	平成元年度～	都市局所管補助金・公園事業債
牧ノ島城跡	城 跡	県	信州新町牧野島城	土塁・櫓形の整備、木橋の仮設、説 明板設置	昭和51・53年度	
御 殿 場 遺 跡	集 落 址	県	伊那市富県	復元住居建設・説明板設置など	昭和46年度	市一般財源
上 原 遺 跡	集 落 址	県	大町市平	環状立石の復元、説明板設置	昭和55年ほか	市一般財源
松 尾 城 跡	城 跡	県	飯田市松尾	広場の整備・四阿・藤棚などの設置	昭和54～58年度	都市局所管補助金
八 丁 鎧 塚 古 墳	古 墳	県	須坂市上八丁	周辺の公園整備	平成4～5年度	地域文化財保全事業

平成4年9月1日現在、長野県内には、国指定史跡が23市町村29ヵ所、県指定史跡が40市町村64ヵ所あり、このほかに約540ヵ所の市町村指定史跡がある。

これらのうち、何らかの整備が行われている国・県指定の史跡は、別表のとおりとなっている。国指定史跡については全体の60%にあたる17史跡で整備が行われており、その多くが学識経験者を含めた整備委員会

での検討をへたうえで整備計画を作成し、整備を実施している。一方、県指定史跡の整備は、ようやく緒についたばかりの状況であり、全体の15%、10史跡で整備が行われているにとどまる。

史跡整備をすすめる場合、いちばん問題になるのが財源である。国指定史跡については文化庁の史跡等保存整備費の補助制度があり、この補助対象となったも

のについては国が50%、県が15%の補助を行っている。しかし、全国的に整備を計画している史跡が多いため、予算がつくまでに時間がかかる、あるいは一度国の補助により整備を実施したものの再整備については補助対象になりにくいといった問題点がある。

このような状況の中で、近年、自治省所轄の「地域づくり推進事業」などの起債事業によって史跡整備を行う例が増えてきている。起債事業そのものは、建設課・都市計画課などの企画部局が計画立案・整備実施の主体となる。そのため、教育委員会との協議が十分なまま整備計画が作成され、工事着手の段階で計画

変更を余儀なくされる例や、史跡の価値を損うような工事が行われた例がまみられる。

こうしたことを防ぎ、よりよい史跡整備を行うためにも、各市町村教育委員会が企画部局との連絡を密にし、整備計画立案の段階から共同で仕事をすすめていくことが必要である。事業の円滑な遂行のためにも、今まで以上に関係各部局が相互に連絡をとりあい、早期に事業計画が掌握できる体制をつくることを、市町村にはお願いしたい。

これからは、史跡を保存することはもちろんだが、それ以上にいかに活用するかが大きな課題であろう。

平成4年度 (財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査状況

概 要

高速自動車道の建設が東の佐久市から北の中野市にまで広がり、また北陸新幹線関係の発掘調査も沿線の各地で始まることとなった。これに対応し、上田市に新しく調査事務所を開設し、中野支所は調査事務所として、従来の佐久・長野調査事務所にくわえ、4所体制でスタートした。

発掘調査は、上信越道関連28遺跡、北陸新幹線関係9遺跡、県道バイパス関係3遺跡の計40遺跡(8月25日現在)を対象として進行している。整理作業は長野自動車道・上信越自動車道関係で発掘調査の終了した北村遺跡他8遺跡について実施している。

佐久市芝宮遺跡は、埋土が厚く遺構の保存状況が良好で、住居の構造を考えるに貴重な資料を提供した。また、深さ約3mの断面V字状の大溝は、多様な遺物を包含し、規模・形態とともに、その性格が目される。小諸市三田原遺跡の柄鏡形敷石住居跡の入口部の石段はおそらく初めての調査例と思われる。三田原遺跡の北側に隣接して縄文時代中期から後期の遺跡が新

たに発見され、8月6日から本格的に調査を開始した。東部町中原遺跡は埋没した小河川に挟まれた狭い尾根上が住居・土坑群などの場として利用されたもので、この地域の遺跡立地のひとつのすがたを示している。上信越道の更埴・長野インターチェンジ間は本年度で終了する。更埴市屋代遺跡群の礎石建物跡はきわめて注目される。長野市榎田遺跡の検出住居跡の数は1遺跡としてはおそらく県内最多であり、古墳時代集落の標準的調査例となろう。調査は密集して重複する遺構により地山の判別にも困難をきわめるほどであり、くわえて工事工程との調整により調査区を細分・分断して調査時期・年度を変えるなど緊急調査の縮図とも言える発掘となっている。更埴市清水製鉄跡遺跡は平安時代を中心とし県下最大規模の製鉄遺跡である。精練・大鍛冶・小鍛冶の製鉄の一貫した遺構が調査される県内初の例である。整理作業は今年度報告書刊行に向け明科町北村遺跡、坂北村向六工遺跡等、順調に進行している。中野市池田端窯跡の奈良時代の瓦の窯跡を調査し、供給先などの解明が目される。

上田調査事務所開所

西上田駅近く、対岸が県指定天然記念物「小泉下塩尻及び南条の岩鼻」という風光明媚な千曲川縁の約12,000㎡の敷地に管理棟1棟・収蔵庫4棟が建てられています。管理棟は916㎡で、事務室・調査員室・整理室・洗浄室・会議室・資料室などを備えており、所長以下10名、6名の調査研究員が調査に従事しています。また、収蔵庫にはセンターがこれまで調査した各遺跡の出土品が保管されています。



(住所 上田市下塩尻936-3)

T E L 0268-26-9394)



佐久調査事務所

4月当初、北陸新幹線関係の金井城跡、上信越道関係の赤沼、長野原・下前田原、芝宮遺跡の4遺跡群で調査を開始した。このうち赤沼遺跡は若干の遺物を検出したのみで終了し、長野原・下前田原遺跡も遺構・遺物は少なく、代替地の調査を残し4月末終了した。4月末より、上信越道で小諸市三子塚遺跡群と三田原遺跡群の調査に着手したが、両遺跡とも8月初め残件部分を残してほぼ調査を終了し、新たに小諸市御影の中原遺跡、同八満の岩下遺跡に着手した。

三子塚遺跡群では、国道寄りの地区から平安時代の竪穴住居11・掘立建物1・溝状遺構6・土坑などが、北側地区ではすでに破壊された古墳1基が調査された。そのうち1号住居跡は火災に遭ったらしく、床面に板壁と思われる板材が炭火して残っており、住居の構造を知る上で注目される。古墳は、幅2mの周濠も含め直径約18mの円墳である。横穴式石室は削平されて、その一部が残るだけであったが、出土遺物から7世紀後半の古墳と考えられる。

三田原遺跡群からは縄文時代中期の竪穴住居9、後期の竪穴住居6・土坑30以上・土器捨て場1か所、平

三田原第3号住居址張出部（住居址内より）

安時代の竪穴住居2・溝状遺構2などが検出された。このうち縄文時代後期初頭の柄鏡形敷石住居である3号住居跡の柄の部分、約60cmほど掘り凹められ壁が石積みされ、入口施設と考えられる石段状の石組みが造られている。これまで機能が不明確であった柄の張り出し部分が入口であるという説を裏付けるものであろう。4号住居跡も柄鏡形住居であるが、入口部から左右に石列が続き、柄鏡形敷石住居の性格を示す施設として注目される。

金井城跡の調査も順調に進んでおり、三郭・北郭に
(右ページ下につづく)



三田原遺跡の敷石住居（上図の全景）



上田調査事務所

○上信越自動車道関係

中原遺跡 東部町和地区にあり、烏帽子岳山麓に形成された複合扇状地に立地する縄文時代から平安時代にかけての集落遺跡である。過去の調査では縄文時代後期の敷石住居や人骨を埋納した中期の深鉢形土器等が検出されている。調査は二つの河川にはさまれた扇状地を横断するように行われている。遺跡内は尾根と沢が組み合わさった複雑な旧地形を構成していて、沢からは湧水が認められることが判明した。現在までに検出された主な遺構は、竪穴住居址14軒（縄文時代8〈前期5、中期2、後期1〉、弥生時代後期2、平安時代4）、掘立柱建物址2棟（平安時代？）、土坑200基以上（そのうち時期の判明するもの縄文前期15基、後期36基）である。遺構は扇状地の尾根部に集中しており、幅30m程のやせ尾根に住居址と土坑群などが検出されている。住居址と土坑は時期が一致せず、縄文前期では中葉の住居址（関山式？）に対し土坑は後葉の

属する地区の調査を終了し、竪穴建物跡80・掘立柱建物5・土坑50・柵列12・幅12m・深さ3mの空堀3などが検出された。現在、外郭・二郭を調査中である。二郭は主郭に隣接しており、城中心部の遺構・遺物が明らかにすることが期待される。

芝宮遺跡は古墳時代から平安時代まで続いた集落であり、西側地区の調査も終了に近づいている。県下2

中原遺跡の全景

諸磯b・c式が主体となる。また、後期でも過去に検出された敷石住居址等は検出されず直径1mほどの円形の土坑がまとまって検出された。土坑の中には略完形の土器や大型の礫を含むものもある。

上原古墳群 坂城町南条地籍にあり、谷川左岸の河岸段丘上に立地する。14基の石積みは小礫を積み上げたもので古墳の可能性は低い。石積面の下部から土坑および小ピットが確認されている。

○北陸新幹線関係

関畝遺跡 坂城町坂城に所在し、中世の製鉄遺構が検出されたことで著名な遺跡である。今回の調査地点は製鉄遺構検出地点の西側にあたり、浅い沢によって地形的には画されている。調査の結果、竪穴住居址6軒（平安時代）、掘立柱建物址1棟（時期不詳）、土坑41基（平安～中世）が検出された。遺物は概して少ないが、1基の土坑から完形土器が4個体（坏3個体、小型の甕1個体）出土したものもある。

例目である海獣葡萄鏡（完形品では初例）・銀メッキされた馬具（辻金具）・帯金具・勾玉などの遺物や、大形の掘立柱建物・竪穴住居・遺跡内を東西にはしる大溝などの遺構から有力者の存在がうかがえる遺跡として注目される。現在、竪穴住居63・掘立柱建物10以上・土坑約100・溝状遺構2が検出されている。

長野調査事務所

今年度、長野市内で小滝・春山・春山B・前山田・榎田、更埴市内で清水製鉄址・更埴条里・屋代（いずれも上信越道関係）、美麻村で千見（県道）の計9遺跡の調査を実施している。清水製鉄址・千見を除いて前年またはそれ以前からの継続調査である。

小滝遺跡は中世山城霞城の山麓から千曲川自然堤防にかけて立地し、霞城との関連が注意される。今年度は、中・近世の石垣や石列に囲まれた整地面を5面確認し、礎石建物1棟などを明らかにして、平成元年度から継続して行われた調査も7月に終了した。

春山および春山B遺跡は千曲川自然堤防上に立地する。元年度の調査で弥生時代中期から後期の集落・墓を明らかにした。今年度の調査でもそれらの隣接部を調査し、竪穴住居7・方形周溝墓1・溝5などを発見した。また、少量ながら弥生時代前期の土器を出土している。

前山田遺跡は城ヶ峰山麓部の近世・近代に存在した観音寺の跡といわれる。元年度に続いての調査により、整地面上の建物址4棟・道路・石列・土坑などと漆椀・青磁・硯・鉄塊・建築部材などを出土し、5月に調査を終了した。

榎田遺跡は千曲川自然堤防上の弥生時代中期から中世にかけての継続的で大規模な集落遺跡である。元年度から継続しての4年目の調査であり、今年度終了予定である。今回の調査では弥生時代後期の竪穴住居43・溝5、古墳時代の竪穴住居195・掘立建物37・溝45などを発見した。古墳時代の資料は、沼地より出土した1,000点以上の木製品類、子持勾玉を出土した竪穴住居、住居床面に伸展葬の状態で人骨が発見された例が8例（3世紀末～7世紀初）など注目されるものが多



榎田遺跡の古墳時代木製品出土状況

い。

清水製鉄址は有明山の山腹から山麓に立地し、10世紀ころの製鉄関連遺跡である。作業場と考えられる平坦面11か所、製錬・精錬・鍛錬鍛冶炉22基、伏焼製炭遺構6基などを調査中である。約4万㎡の調査区内に諸遺構は散在する。炉の遺存状況は良くなく大半は炉底部しか残らないが、直径60cm程度の竪型炉の下半部が1基確認できた。多量の鍛造剥片を有する炉もあり、製錬から鍛錬まで一貫した作業が遂行されたものと思われる。鉄塊・炉内滓・流動滓・炉壁・羽口等が多出しており、すでに1tちかい重量になった。

更埴条里遺跡は千曲川の自然堤防から後背湿地にかけて立地する平安時代から中世の集落および水田遺跡であり、昨年に引き続き2年目の調査である。今年度は平安時代の竪穴住居53・溝47、3条の大畦畔を含む水田2面、中世の竪穴住居7・掘立建物15・溝11・土坑多数などを検出した。特に平安時代の水田域と集落



屋代遺跡群の礎石建物跡

域の境界を調査中で、成果が注目される。

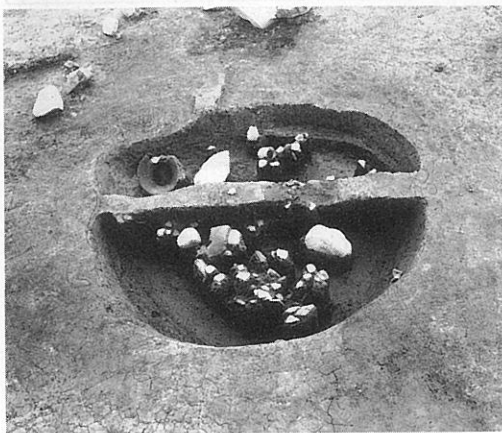
屋代遺跡群は千曲川自然堤防上に立地する弥生時代から中世の集落および水田・畑跡で、昨年に続いて2年目の調査である。自然堤防上には帯状の起伏があり、一貫して居住地に利用される場所と時により水田や畑地にも利用される場所がある。竪穴住居は数百にのぼる。9世紀代の礎石建物5棟が集中する区域は地方豪族クラスの居住域の可能性があり注目される。また、9世紀代の畠や当地域では初の発見となった古墳時代の小区画水田も注意される。古代集落や開発史を論ずるに不可欠の資料となろう。

千見遺跡は土尻川の河岸段丘上に立地する戦国時代から近世の居住地跡で7～8月に調査した。戦国時代の掘立建物1・近世整地面などが発見されたが、17世紀に存在したという善福寺との関連が注意される。

中野調査事務所

4月より、いわゆるオリンピック道路関係で昨年度から継続調査の中野市栗林遺跡、上信越自動車道関係で新規に中野市池田端窯跡および清水山窯跡の調査を行い、8月からは上信越道で小布施町玄照寺跡および飯田古屋敷遺跡の調査を開始している。

栗林遺跡では、昨年度、縄文時代後期の貯蔵穴群と水さらし場と考えられる板囲い施設が見つかった場所の隣接地を調査し、縄文時代の貯蔵穴などがみついている。また、ほかの地区では弥生時代中期から平安時代にかけての住居跡・土坑・井戸・溝などがある。これらのうち、弥生時代中期の土器は、これまでまとまった資料の少なかった栗林遺跡の栗林式土器の内容をしめす貴重なものとなった。また、古式の須恵器が住居跡からまともに見つかり、今のところ7世紀以降の窯しか確認されていない近在の古窯跡群との関係も注目される。平安時代住居跡からは八稜鏡も見ついている。



栗林遺跡の縄文時代後期の貯蔵穴

池田端窯跡では、窯跡・粘土採掘坑などをあきらかにして、8月4日に調査を終了した。須恵器の窯跡7基は奈良時代および平安時代のもので、そのうち2基は瓦を焼いており、一方は奈良時代前半のものと考えられる。粘土採掘坑は窯跡群から50mほど離れたところに集中し、直径1.5～2mで円形のものから大形で不整形なものまでさまざまな平面形を呈する。遺物の出土状態に特徴があり、坑底ちかくから須恵器を主体に甕・横瓶・長頸壺などの半完形品が出土した。これらの遺物から見て、この採掘坑は7～8世紀のものと考えられる。昨年度調査した沢田鍋土遺跡でも同様の採掘坑が多数あったが、4世紀代のもので窯跡群と結びつくものではない。今回の場合、採掘坑と窯跡が直



池田端窯跡の瓦窯

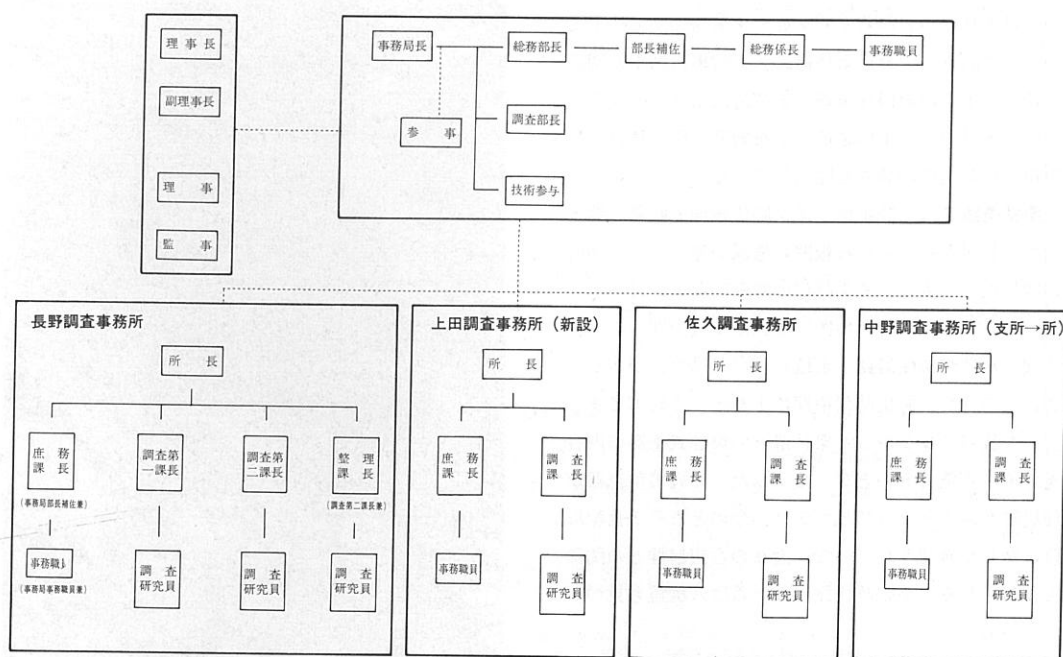
接結びつく可能性があり、窯業生産のあり方を考えるに重要な資料となった。

清水山窯跡はその一部の低地帯を調査したが、周辺窯業地帯の古環境復元に有益な自然科学的データを得られた。今後、窯跡の調査を進める予定である。

玄照寺跡は中・近世の寺院跡とされるところで、小布施町大島の曹洞宗の名刹玄照寺が近世初期に現在地に移転する前に所在したという伝承の地である。隣接の飯田古屋敷遺跡とともに、昨年度末に文化課、今年度センターが試掘調査をし、その結果に基づいて調査を進めている。当初の範囲より南に寄ったところに遺構が集中し、戦国時代と考えられる建物跡・井戸・溝・火葬施設などの遺構、中・近世の常滑をはじめとする陶器、宋・明銭などの古銭が見つかった。しかし、今のところ寺院跡に直接結びつくような遺構は明確ではない。寺跡が現在の千曲川堤防の西側河川敷内だという伝承もある。

飯田古屋敷遺跡は中世居館跡とされるが、今のところ、明確な遺構が確認されていない。現状で観察すると、周囲の堀跡とされる地形は自然地形の一部と考えられ、隣接する調査区外に居館の可能性を指摘できる地割が見受けられる。また、南端部の一段低い部分で近世以降の水田跡を確認した。その下層で、時期は不明確ながら、漆塗碗などの木製品が見つかった。

平成4年度(財)長野県埋蔵文化財センターの組織



埋文センター人事異動

- 退任
- ・(11月2日付) 調査研究員 百瀬忠幸
 - ・(12月31日付) 佐久所長 畑 幹雄
 - ・(3月31日付) 専務理事 塚原隆明、調査研究員 大久保邦彦、調査員 阿藤慎治
- 転任(3月31日付)
- ・総務部長 塚田次夫(監査委員事務局)
 - ・主査 三ツ井栄一郎(長野教育事務所)
 - ・調査研究員 伴 信夫(犀陵中)、深沢重夫(篠ノ井西中)、福島正樹(文化課)、武居公明(岡谷東高)、稲場隆(屋代南高)、岡沢康夫(須坂小)、小林清人(松川高)、下島浩伸(飯田工業高)、中沢道彦(特殊教育課)、松岡昭彦(犀陵中)、宮脇正実(宮田小)、三上徹也(文化課)、入沢昌基(木曽高)、北島英巳(文化課)、小林秀行(二子小)
- 新任(4月1日付) ○事務局
- ・参事 樋口昇一
 - ・総務部長 神林幹生(南信労政事務所)
 - ・総務係長 羽入田博行(長野教育事務所)
- 長野調査事務所
- ・所長 岡田正彦(篠ノ井高)
 - ・事務職員 桑原衆三(3年6月~)、安藤唯幸
 - ・調査研究員 太田和夫(上山田小)、島田正夫(湯谷小)、常長虎徹(井上小)、宮下裕治(柳原小)、月原隆爾(柏原小)、吉江英夫(女鳥羽中)、山中健(長野

- 西部中)、鳥羽英継(上田養護)、瀧井英知(篠ノ井高)、徳永哲秀(犀峽高)、井口慶久(茅野高)、酒井健次(梓川高)
 - ・調査員 宮入英治、下平博行
- 佐久調査事務所
- ・所長 青沼博之(波田中)
 - ・庶務課長 玉井昌二(上田建設事務所)
 - ・調査研究員 五十嵐敏秀(上田二中)、飯田吉隆(穂高南小)、白鳥喜一郎(南箕輪中)、征矢野安政(田立小)、田村 彬(丸子実高)
 - ・調査員 尾台 昇
- 中野調査事務所
- ・所長 関孝一(文化課)
 - ・庶務課長 高野幹郎(飯田保健所)
 - ・事務職員 鈴木仁
 - ・調査研究員 白田広之(松川中央小)
- 上田調査事務所
- ・事務職員 神田まさみ
 - ・調査研究員 寺沢政俊(相森中)、西村政和(長地小)
- 内部異動
- ・事務局長 峯村忠司(長野所長)
 - ・佐久調査課長 白田武正(長野調査第一課長)、同調査研究員 藤原直人、桜井秀雄(長野調査研究員)
 - ・上田所長 堀内規矩雄(中野支所長)、同調査課長 廣瀬昭弘、同調査研究員 甲田圭吾、若林卓、川崎保、柳沢亮(以下、長野調査研究員)
 - ・文化課 大竹憲昭(長野調査研究員)